

## ～浅草子供歌舞伎会の発足とおもてなしサービス～

木馬亭での「歌舞伎鑑賞会」に地元の園児・児童とその保護者を招待。歌舞伎に関心を持った子供たちを集め、体験教室を経て浅草に念願の「こども歌舞伎会」を発足、3月の歌舞伎公演を目指し育成を進めた。同時開催した応援セールも賑わい、保護者や歌舞伎ファンなど、新たな顧客層の開拓につながった。

所在地：東京都台東区浅草2-3-22  
TEL：03-3844-0784 FAX：03-3844-0759  
URL：<http://www.omairimachi.jp/>  
組合員数：39名  
商店街の類型：広域型商店街

## 商店街の概要と事業を実施した背景

浅草寺本堂とつくばE X P浅草駅をつなぐ参道的な位置にあり、飲食店と衣料品店の多い商店街。「江戸町文化」の発信をコンセプトに、江戸町風の景観整備に合わせ、平成20年に首都圏各地のこども歌舞伎を招致。商店街や浅草寺境内でお練りや公演を催したところ、多くの観客を集め、期間内の売上も大幅増となり、以来、毎年約2万名を集める恒例のイベントとなった。こうした中で商店街は、若年世帯の江戸歌舞伎への関心の高まりと広がりを、一過性でない、継続的な来街と組合員店舗の利用につなげることを目指して、今回の事業に取り組んだ。



## 実施した事業の概要

## ①こども歌舞伎鑑賞会の開催（平成25年8月27日・28日）

鑑賞会には、山形県や滋賀県の著名な「こども歌舞伎保存会」を招き、首都圏にある保存会との競演が実現。街区内の木馬亭で2日間、全4回公演を行い、台東区内の園児・児童ら延べ157名が鑑賞した。

## ②こども歌舞伎体験教室の開催

8月の「鑑賞会」で歌舞伎に関心を持った子供たちを集め、12月の「浅草こども歌舞伎会」の発足と、翌年3月の初公演を目指し、9月から12月にかけて計8回、「白浪五人男」の演目の稽古を体験してもらった。この教室を経て地元浅草に「こども歌舞伎会」が発足。商店街の女性部とNPO法人のほか、応援団（サポーター）をチラシで募集し、子供たちをサポートした。

## ③こども歌舞伎会応援セールの実施

「こども歌舞伎鑑賞会」や「こども歌舞伎教室」の開催に合わせて、会場付近に野点日傘と縁台を用意し、商店街の女性部が中心になって冷茶や綿あめで来街者をもてなした（8月27日～9月1日）。さらに組合員店舗では、協賛セール（9月1日～12月29日）の実施や買い物のお客様に抽選で記念品を差し上げたことで、商店街への回遊につながり、保護者や歌舞伎ファンとの交流や新規顧客の開拓にも成功した。



## 成果と成功の要因



商店街では、浅草寺の参拝客を商店街へ誘導できていないとの問題意識から、こども歌舞伎の企画に取り組んだ。今回の事業で発足した「浅草こども歌舞伎会」は、関東近県や都区内の他団体とともに、平成26年3月21日～30日までの土・日・祝日開催の「第6回浅草奥山こども歌舞伎まつり」で、各2公演ずつ、浅草寺観音本堂前の特設舞台にて初演の運びとなった。雷門横での口上と仲見世でのお練りも披露し、多くの観客を集め、盛り上がった。

地元のこども歌舞伎会の発足により、歌舞伎への関心や商店街の認知度が高まり、来街者をさらに多く呼び寄せることに成功した。この盛況ぶりを受けて、個店の売上も従来の2～3割増を記録した。

## 今後の取り組み

今回発足させた「浅草こども歌舞伎会」を女性部が中心となって運営し、当組合の宝として育成していく。また、恒常的な集客のため、歌舞伎文化にちなんだ商品開発を積極的に行い、個店で陳列販売するなど、バックアップすることで地域のブランドイメージを定着させ、収益強化を図る。こうした活動を近隣商店街と連携して行うことで「江戸大衆文化の街・浅草」をアピールし、各商店街の集客につなげるとともに商店街同士の結びつきを強め、浅草の「歌舞伎文化」を内外へ発信する力を強固なものにしていきたいと考えている。